治療計画立案サポートガイド（装置と処置の早見表）

部分的に改善できる総移動量の目安です。複数個所を改善する場合はどこを優先するかで変動します。

叢生を解消したい	空隙を閉鎖したい	前突を改善したい	OBを改善したい
↓	↓	↓	↓
アライナー 拡大床 / IPR	アライナー	IPR （＋ATT）	ATT EL
↓	↓	↓	↓
解消可能量目安（アライナー） 5回コース： ～1.5mm 10回コース： ～3.0mm 15回コース： ～3.0mm ※理論値計算では15回で4.5mmですが アライナー拡大は3.0mmまでが 現実的な可能量として考えます 拡大床の有無、IPR量により変動 15回は拡大床5.0mm+IPR2.0mm で7.0mm叢生解消の可能性あり	閉鎖可能量目安 5回コース： ～2.0mm 10回コース： ～3.0mm 15回コース： ～4.5mm ※歯列全体の空隙量として 一か所の空隙量が多いと 閉じ切れない可能性があります	改善可能量目安 5回コース：1.0mm 10回コース：1.5mm 15回コース：2.0mm ※前歯部後方移動＝アーチ縮小 空隙閉鎖理論値に準じます 上顎前突なら上顎IPR 下顎前突なら下顎IPR 後方移動による相対的圧下で干渉する 可能性があるためATTもセットで付与	改善可能量目安（ATT） 5回コース：1.0mm 10回コース：2.0mm 15回コース：3.0mm ※2.0mm以上の移動はELを推奨します 過蓋咬合は Spee湾曲が正常：上顎前歯を圧下 Spee湾曲が深い：下顎前歯を圧下

できるところまでの改善（解消しきれていない状態）は後戻りしやすいです

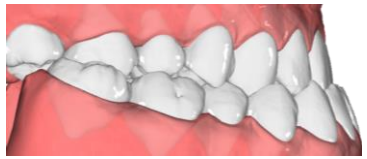
© SheepMedical Co., Ltd.

口腔内所見の見方

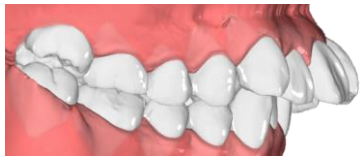
臼歯関係

正面から90度横（＝セファロ撮影と同じ状態の真横）から確認します　左右差はズレが大きい方を採用します（右側 I級 左側II級 = II級）

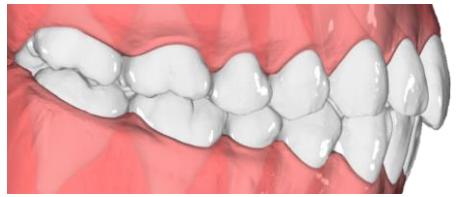
III級



II級



I級



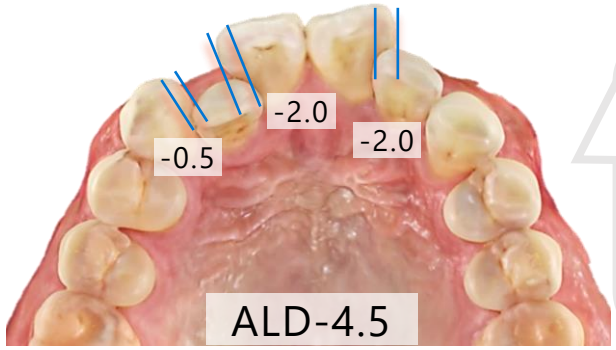
1歯対2歯咬合

臼歯関係はOJ/OBと関わっています
臼歯関係がI級でTooth-size ratioに問題がなければ
適切な被蓋が獲得できます
前突がある場合はIPRでスペースを獲得し
前歯を後方移動することで適切なOJが獲得できます
※キレイライン矯正は臼歯関係の改善はしません

Angleは上下6番の前後的位置関係で確認しますが”上5番の咬合”も確認することで正確に判定することができます
出所：ストレートワイヤー法/基礎理論と装置　著Lawrence F. Andrews,D.D.S.　オプティマルオクリュージョンのための6つの鍵より（第 I の鍵）

ALD

5-5の重なり部分（叢生）と隙間（空隙）の**総和量**を上下別に算出します
一般的に臨床では目測で把握します（0.5mm単位）



叢生＝ALD－　空隙＝ALD＋

スペースがなければ
歯は動きません
そのため切り上げで
多目に計測します
例
0.3mmくらい→0.5mm

OJ/OB

OJ：上下顎切歯間の水平距離
原則上下同名歯で計測します

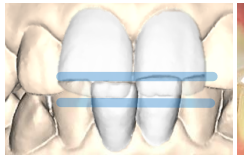
OB：上下顎切歯間の垂直距離
原則上下同名歯で計測します

+4.5

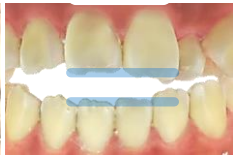


歯冠幅径の中央付近

+2.0



-4.5



左右差は正常値から数値が遠い方を採用します（正常値：+2.0～3.0mm）
開咬の原因に舌癖がある場合は矯正とあわせて舌のトレーニングも必要です

© SheepMedical Co., Ltd.

レントゲンで確認すること

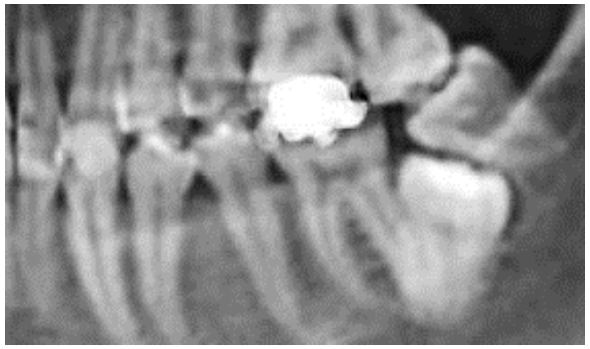
歯槽骨の状態や処置歯・埋伏歯等の確認と根の形態や並行性、下顎頭の形態を確認します

埋伏歯が隣接歯の歯根に引っかかっている

▼

該当歯の移動は期待できません

（セットアップ上で動かしても実際には動かない可能性が高いです）



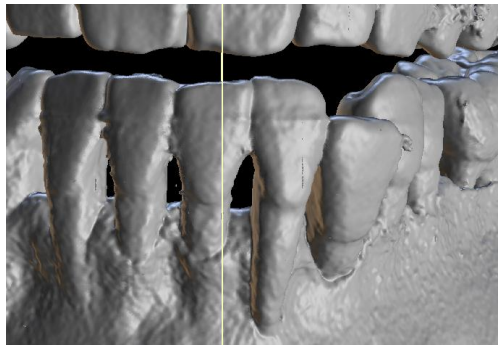
歯肉が下がり唇/頬側の歯槽骨がない 下顎前歯部の骨が薄い

▼

動かすとさらに歯肉退縮する可能性が高いです

動かさない/動かすのであれば移動方向を指示

してください





初診の技工指示書に項目があります

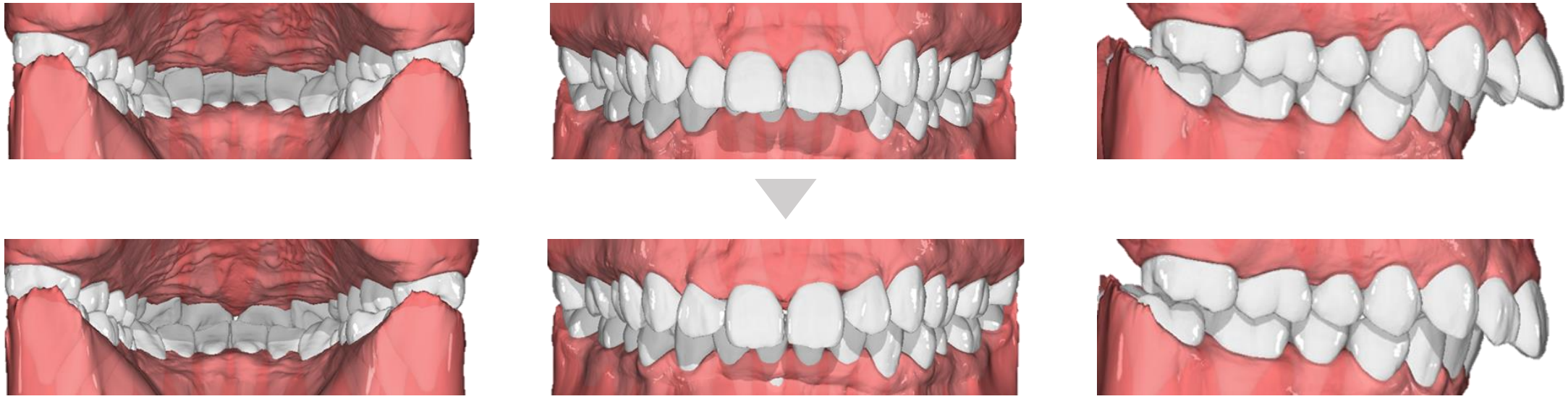
埋伏歯の状態：該当するいずれか選択してください	歯槽骨の状態：該当するいずれか選択してください
a．☐ なし　　b．☐ **あり（部位を歯面/歯式図へ記入）** ※埋伏歯が隣接歯の歯根が引っかかっていると該当歯の移動は期待できません	a．☐ **問題なし**　b．☐ **問題あり（症状の詳細と部位を歯面/歯式図へ指示）** ※動かさない or 動かす場合は移動方向を指示してください

© SheepMedical Co., Ltd.

後戻りしやすい症例とは

治療後に緊密な咬合や適正なOJ/OBが獲得できていない症例です

例）上顎II級前突でバイトコントーロール



下顎前歯の上顎前歯舌側への咬み込みは圧下により改善されていますが、適切なOJが獲得できずに対合歯での接触がないため後戻りしやすくなります

© SheepMedical Co., Ltd.

改訂履歴

Ver.	Date		
1.0	23/02/10	ー	初版発行
2.0	23/07/01	P.4 OBの追加治療 P.6-9 ー	ATT/バイトランプの追加 矯正治療の基礎知識の追加 フォーマット変更、活用例の削除（別途サンプル症例発行）、誤植訂正
2.1	23/07/05	P.7 ALD+の計算	誤植訂正
3.0	24/04	ー	キレイライン矯正リニューアルに合わせて更新

© SheepMedical Co., Ltd.



免責事項

ここに記載する情報は、当法人が正確を期して提供しておりますが、その正確性、有用性、確実性について保証するものではなく、一切の責任を負わないものといたします。

また、これらの情報は各々の判断と責任によってご利用いただくものであり、医療診断または治療の代用として利用されることは意図されておらず、また想定もしておりません。

なお、情報をより正確かつ適切にご利用いただくために、予告無く内容の修正、変更、削除をおこなう場合がありますが、それらによって生じるいかなる損害についても一切の責任を負わないものといたします。